初級レベル研修

ルーター選定セミナー

NETREND ウェビナー
（技術セミナー）

一般社団法人 情報通信設備協会

V2.7

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

内容

①インターフェースを確認する
②通信速度などの性能を確認する
③セキュリティ機能を確認する
④その他の機能を確認する
⑤ルーター製品と選定例
Appendix：各種販促情報のご案内

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

①インターフェースを確認する

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

インターフェースを確認する

■ 確認事項

1. **必要なインターフェースの種類と数**を確認する
2. **インターフェースの機能**を確認する

NOTE LAN-WAN間の異なるネットワーク環境を接続するルーターでは、インターフェースの確認が重要となります。

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

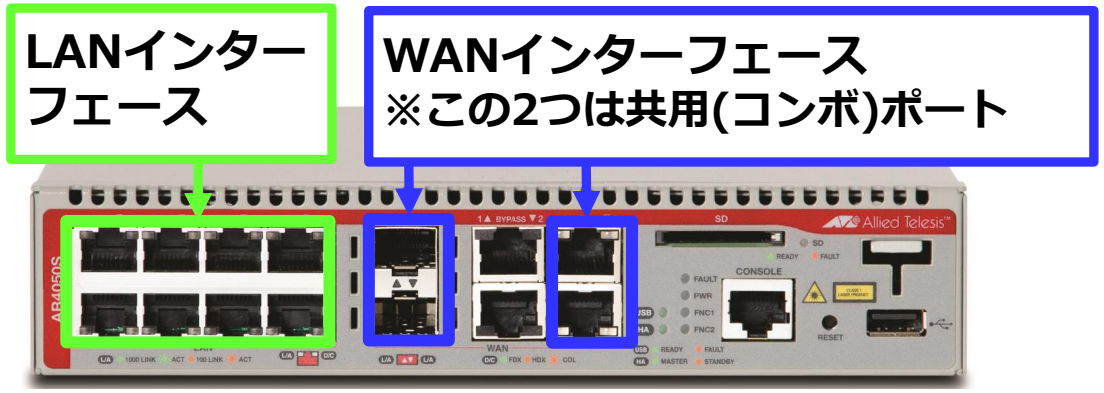
1. 必要なインターフェースの種類と数を確認する

■選定ポイント

- **接続するネットワーク数分のインターフェース数を実装していることを確認**
  - LANインターフェース数とWANインターフェース数を確認
  - WAN回線を冗長化する場合は、最低2つのインターフェースが必要
- **この際、共用ポートの存在の有無の確認、および共用ポートが存在する場合はどのポートが共用ポートかを確認**
  - 共用ポートとは、一方のポート使用時はもう一方は使用できないポートのこと

NOTE WANインターフェースには、イーサネット (Ethernet)インターフェースがあります。

【弊社ルーター
（AT-AR4050S）の場合】



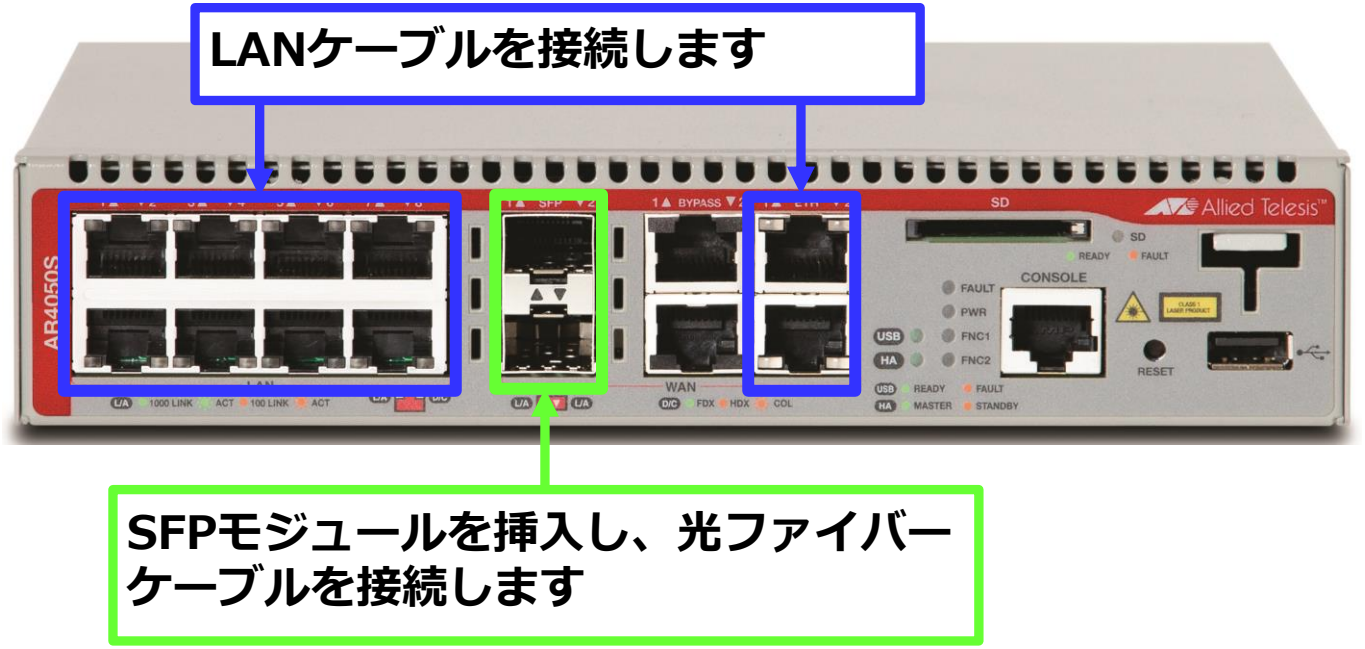
Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

2. インターフェースの機能を確認する

■選定ポイント

- **インターフェースの通信速度および使用するケーブルを確認**
  - インターフェースの通信速度（100Mbps、1Gbps、など）が接続する回線に適しているか
  - 接続するケーブルがLANケーブルか、光ファイバーケーブルかを確認します。通常光ファイバーケーブル接続時はモジュールなどが必要となります

【弊社ルーター
（AT-AR4050S）の場合】

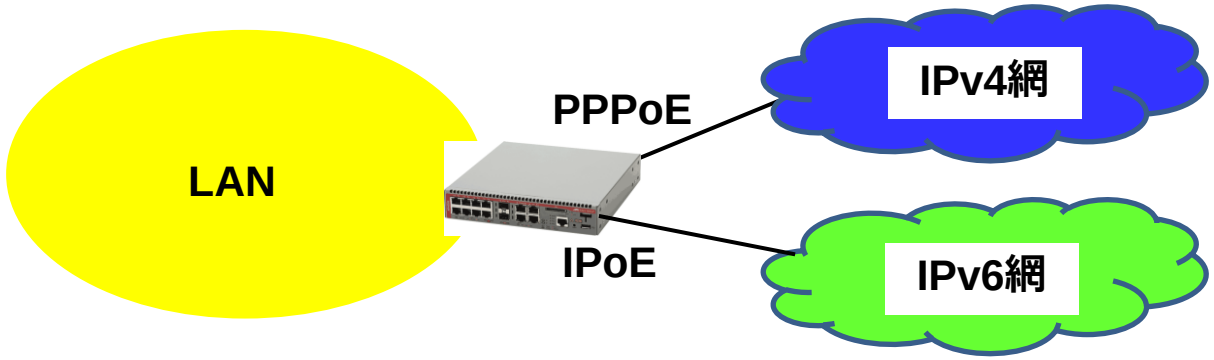


Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

2. インターフェースの機能を確認する

■選定ポイント

- **WANインターフェースには接続する回線に必要な機能が実装されているかを確認**
  - イーサネットインターフェースで、IPv4網に接続する場合はPPPoE※1機能、IPv6網に接続する場合はIPoE※2機能が必要となる
  - IPv6網に接続する場合は、IPv4 over IPv6技術※3でIPv4のインターネットへの接続(検証)実績があるかを確認する
    - ✓ 弊社ルーターにおける動作検証済みのIPv4 over IPv6インターネット接続サービス



※1 PPPoE： Point-to-Point Protocol over Ethernetの略で、WAN回線接続時に使用するPPPプロトコルの機能をEthernet上で利用できるようにした通信方式（機能）
※2 IPoE： IP over Ethernetの略で、イーサネットを使ってIPパケットを伝送するインターネットの通信方式
※3 IPv4 over IPv6技術： IPv6専用のアクセス網経由でIPv4のインターネットにトンネルする技術

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

2. インターフェースの機能を確認する

- 右表は、アライドテレシスのルーターにおける動作検証済みのIPv4 over IPv6インターネット接続サービス一覧になります。
  (2024年12月現在)

	サービス名		NFV-APL-GTX	AR4050S-5G AR4050S AR3050S	ARX200S-GTX	AR2010V	AR1050V	TQ6702 GEN2-R	設定例参照番号一覧※1
株式会社朝日ネット	v6コネクト	固定IP方式	○	○	○	○	○	ー	#72
		固定IP/国内標準方式	○	○	○	ー	○	○	#134
アルテリア・ネットワークス株式会社	クロスパス(動的IP)※3		○	○	○	○	○	ー	#106,#110
	クロスパス(固定IP1)※3		○	○	○	○	○	ー	#108,#111
	クロスパス(複数固定IP)※3		○	○	○	○	○	ー	#112
インターネットマルチフィード株式会社	transix IPv4接続(固定IP)		○	○	○	○	○	ー	#79,#80
	transix IPv4接続(DS-Lite)		○	○	○	○	○	○	#60,#86
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	OCNバーチャルコネクト(IPoE接続)動的IP		○	○	ー	○	○	ー	#98,#99
	OCNバーチャルコネクト(IPoE接続)固定IP1/固定IP複数		○	○	ー	○	○	ー	#101,#102
株式会社JPIX	「v6プラス」固定IPサービス※2		○	○	○	○	○	○	#70,#71
	v6プラス※2		○	○	○	○	○	○	#69,#81
ビッグローブ株式会社	IPv6オプション		○	○	○	○	○	ー	#75
	IPv6サービス(IPIP)	独自方式※4	○	○	○	○	○	ー	#119
		国内標準方式※5	○	○	○	○	○	○	#127※6

※1 表中の番号は各設定例に付与されている番号です。
※2 “v6プラス”は、株式会社JPIXの登録商標（または商標）です。
※3 “クロスパス”は、アルテリア・ネットワークス株式会社の登録商標（または商標）です。
※4 独自方式はDDNSを利用したビッグローブ株式会社の独自方式です。
※5 国内標準方式はIPv6普及・高度化推進協議会で策定された「IPv6マイグレーション技術の国内標準プロビジョニング方式」です。
※6 AR2010Vに関する各コマンドの詳細や設定例は、「AT-AR2010V コマンドリファレンス 5.5.3」をご参照ください。

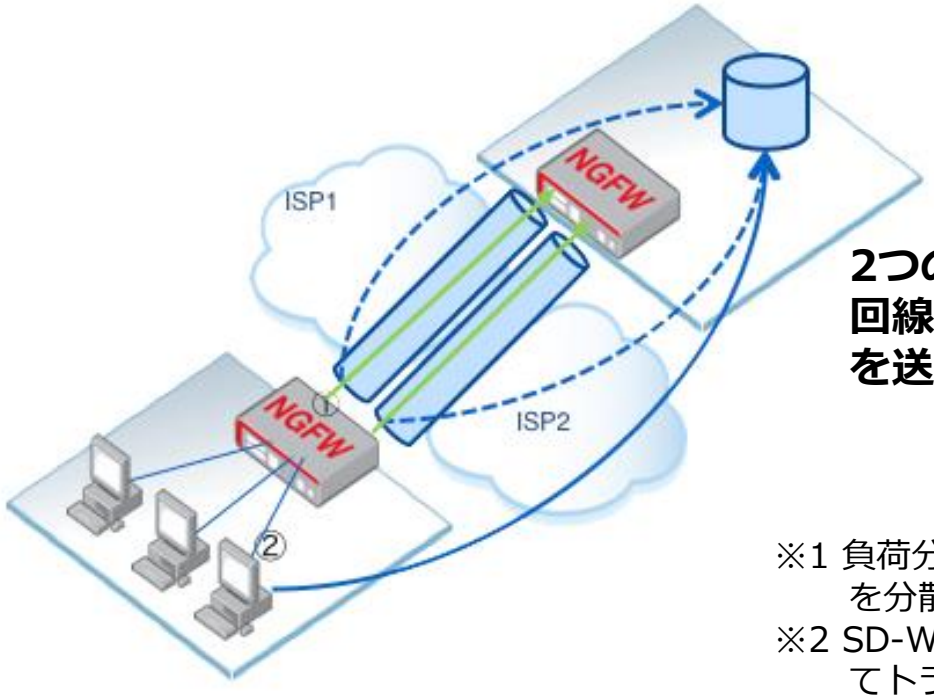
＊右表は、弊社ホームページに掲載しています。
<https://www.allied-telesis.co.jp/products/info/interope/rt-internet/>

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

2. インターフェースの機能を確認する

■選定ポイント

- **WAN回線の冗長化で、1台のルーターにWAN2回線を接続し負荷分散※1を行う場合はSD-WAN※2などの機能が実装されていることを確認**
  - 負荷分散にはSD-WANなどのソフトウェア機能によるものや、予め回線使用率の上限値を設定しその上限値を超えると使用する回線を切り替えるもの、などがあります



2つのインターネット回線を接続し、回線状態の良い回線にトラフィックを送信

※1 負荷分散： 複数の機器や回線を使用してネットワーク上のトラフィックを分散すること
※2 SD-WAN：Software Defined WANの略で、複数のWAN回線を利用してトラフィック負荷を分散させつつ回線冗長を行いWAN回線を効率よく使用する機能（詳細は「ルーター応用セミナー」で説明しています）

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

②通信速度などの性能を確認する

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

通信速度などの性能を確認する

■ 確認事項

1. **最大通信速度**を確認する
2. **ルーティングの種類や登録可能経路数**を確認する

NOTE ルーティングテーブルに登録可能な経路数には上限があります。

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

1. 最大通信速度を確認する

■選定ポイント

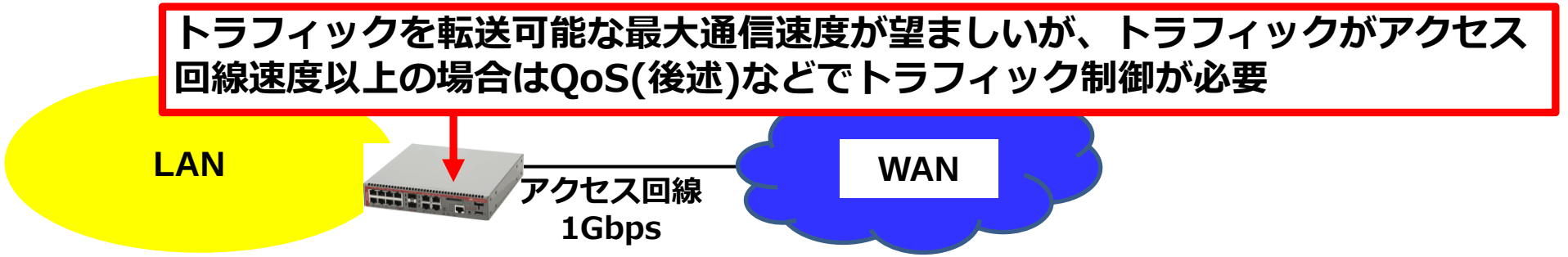
- **最大通信速度がネットワーク規模に適していることを確認**
  - WAN回線接続時は、セキュリティ機能（ファイアウォール、NAT、VPNなど）使用時の最大通信速度を確認する
  - 必要な最大通信速度は、ルーターが接続しているWANアクセス回線の速度とLAN-WAN間のトラフィックを元に判断する
- **トラフィックがWAN回線のアクセス回線の速度を超える場合は、QoSによる制御を検討**

NOTE 【弊社ルーター（AT-AR4050S）の場合】

○最大通信速度（パケット長 1,518Byte）

・ローカルルーティング時：　1,800Mbps

・PPPoE+FW+ENAT使用時：　1,400Mbps

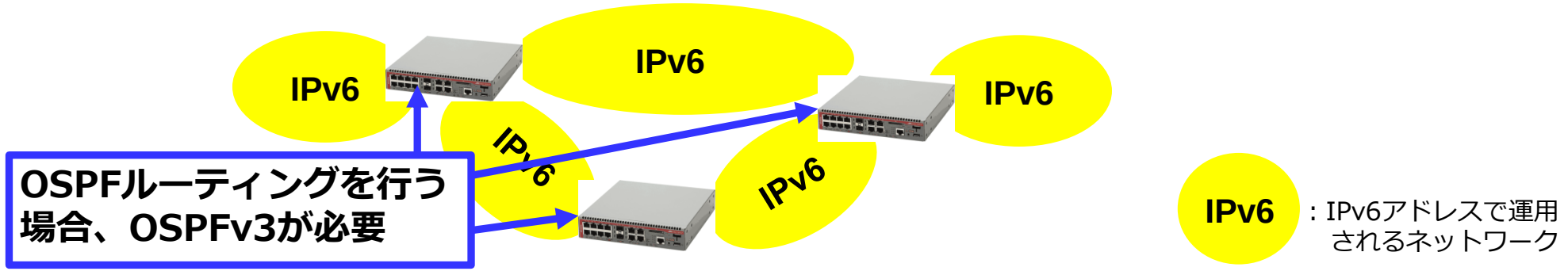


Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

2. ルーティングの種類や登録可能経路数を確認する

■選定ポイント

- **使用できるルーティングプロトコルやそのバージョンも合わせて確認**
  - RIPやOSPFは標準化されたルーティングプロトコルのため、通常どのベンダー機器でも使用可能
  - IPv6ネットワーク環境では、IPv6に対応したルーティングプロトコルのバージョン（RIPng、OSPFv3）が必要となる
- **ルーティングテーブルの登録可能な経路数がネットワーク数以上であることを確認**
  - 登録可能な経路数は、ルーターの機種、ルーティング方法とプロトコルにより異なる
  - ネットワーク数が登録可能な経路数を超える場合は、経路集約※1でネットワーク数を減らすことを検討する



※1 経路集約：複数のネットワーク情報（経路情報）を一つのネットワーク情報（経路情報）にすること

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

③セキュリティ機能を確認する

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

セキュリティ機能を確認する

■ 確認事項

WAN回線接続時には以下のセキュリティ機能を確認する必要があります。

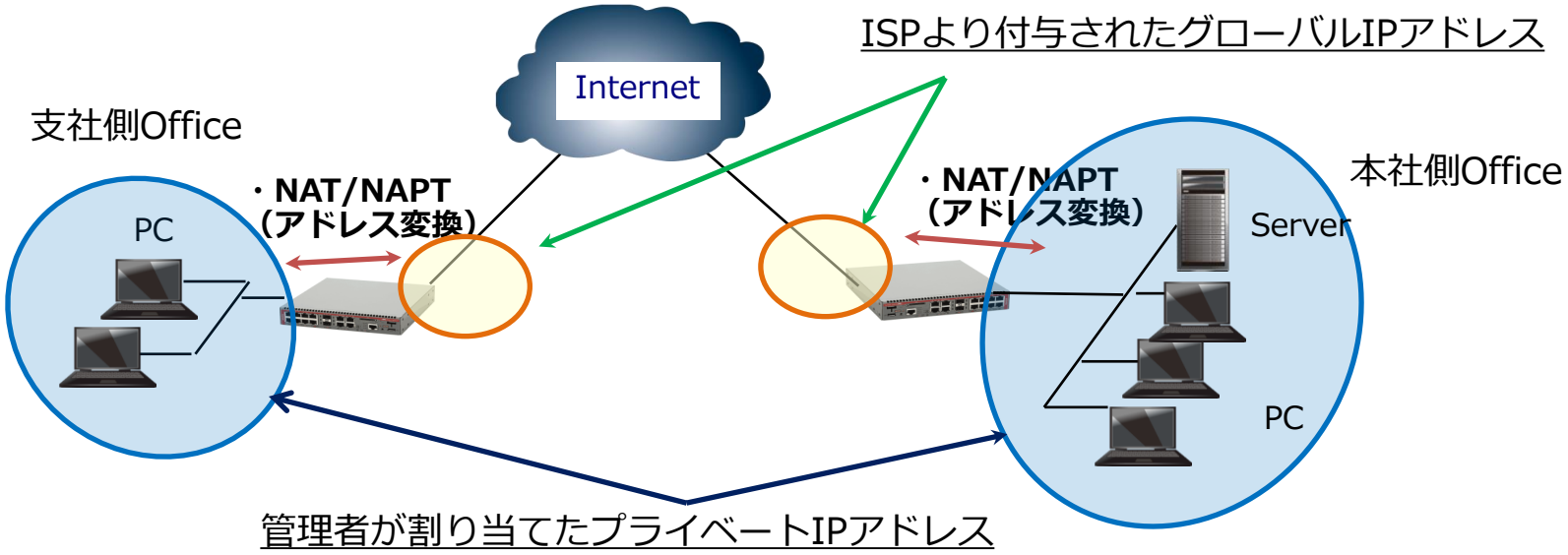
1. **社内ネットワークがプライベートIPアドレスで運用されている場合は、NAT機能**を確認する
2. **ファイアウォール機能の有無と最大セッション数**を確認する
3. **VPN機能使用時には、使用可能なVPNプロトコルと同時接続可能セッション数**を確認する
4. **UTM機能使用時には、使用可能なUTM機能**を確認する

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

1. NAT機能を確認する

■選定ポイント

- **社内ネットワークがプライベートIPアドレスで運用されている場合は、ルーターが持つNAT機能を確認する**
  - 使用できるグローバルIPアドレス数を元にNAT機能を選択（通常は、ダイナミックNAPTを使用）
    <NAT機能は「ルーター基礎セミナー」で説明しています>
- **一般的にNAT機能はどのルーターにも実装されていますが、NAT機能の種類はルーターの機種やベンダー機器で異なる場合があります**



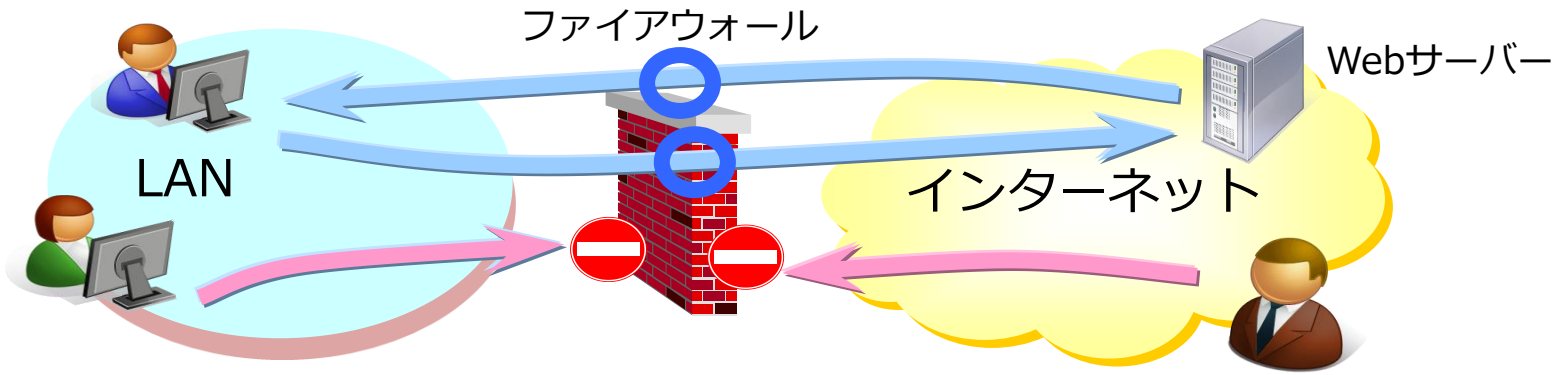
Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

2. ファイアウォール機能と最大セッション数を確認する

■選定ポイント

- **ファイアウォール機能の実装と設定可能ルール数※1を確認**
  - 通常ファイアウォール機能はどのルーターにも実装されていますが、機能レベル（IPv4への対応のみか、IPv6にも対応しているか）と設定可能なルール数は、ルーターにより異なります

- **ファイアウォール機能使用時には、最大セッション数を確認**
  - 最大セッション数とは、ファイアウォールが外部ネットワークとの間で同時処理できる通信の数です。ルーターの機種やベンダー機器により異なります
  - 1台の端末が複数セッションを張ることもあるため、特にクラウドサービスを利用している場合は、十分な最大セッション数を持つルーターを選定する



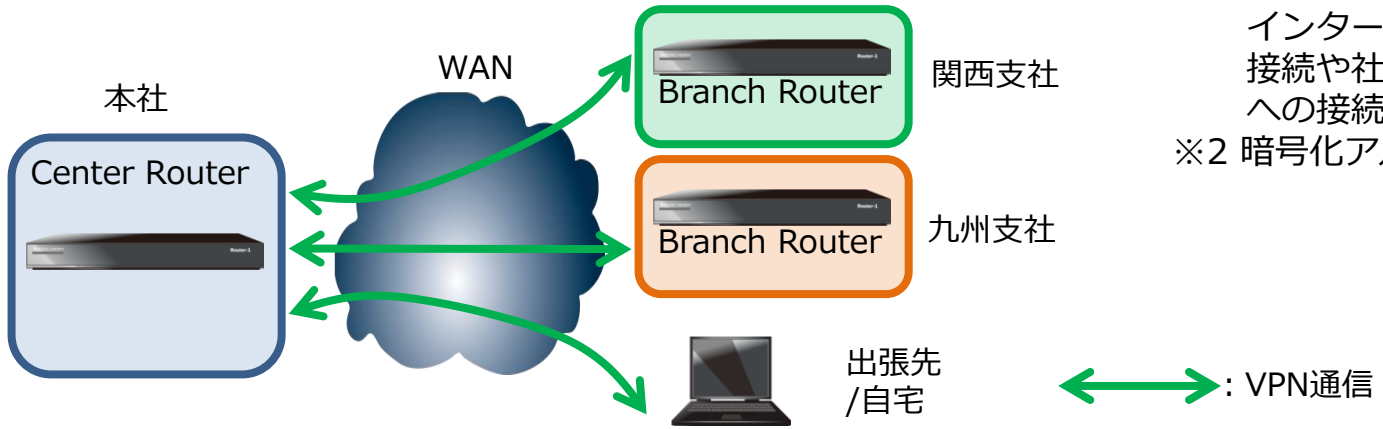
※1 設定可能ルール数：通過パケット/破棄パケットを設定できる条件（ルール）の数です

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

3. VPNプロトコルと同時接続可能セッション数を確認する

■選定ポイント

- **VPN通信を行うルーター間で、同一のVPN※1プロトコルと暗号化アルゴリズム※2などを実装していることを確認**
  - 同一機種、かつ同一オペレーティングシステム(OS、アライドではファームウェアと呼ぶ)のルーター同士でVPN通信を行うのが望ましい
- **使用時には、使用するVPNプロトコルの同時接続可能セッション数を確認**
  - 同時接続可能セッション数とは、同時に通信を行える拠点数や端末数（ユーザー数）になります
  - VPNプロトコル、機種やベンダー機器により同時接続可能セッション数は異なります



※1 VPN：Virtual Private Network の略で、公衆網であるインターネットなどを使用して、企業の複数拠点間の接続や社員の出張先・自宅などから企業ネットワークへの接続を可能にするネットワーク（技術）のこと
※2 暗号化アルゴリズム：暗号化の手順や規則のこと

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

3. VPNプロトコルと同時接続可能セッション数を確認する

- ベンダーがVPNクライアントとの接続実績を公開している場合はその情報も確認します。下表は、アライドテレシスのルーターにおける接続検証済みのVPNクライアント一覧と同時接続可能セッション数になります

OS名称	VPN クライアント	NFV-APL-GTX	AR4050S-5G※1 AR4050S※1	ARX200S-GTX	AR3050S AR2010V	AR1050V	TQ6702 GEN2-R
Windows11	標準搭載VPN クライアント	3,000 (IPsec IKEv2)	1,000 (IPsec IKEv2)	500 (IPsec IKEv2)	100 (IPsec IKEv2)	16 (IPsec IKEv2)	–
	OpenVPN/ vpnux Client	3,000	1,000	500	100	10	10
Windows10	標準搭載VPN クライアント	3,000 (IPsec IKEv2)	1,000 (IPsec IKEv2)	500 (IPsec IKEv2)	100 (IPsec IKEv2)	16 (IPsec IKEv2)	–
	OpenVPN/ vpnux Client	3,000	1,000	500	100	10	10
Windows 7/8.1	標準搭載VPN クライアント	–	–	–	–	–	–
	OpenVPN/ vpnux Client	3,000	1,000	500	100	10	10
iOS	標準搭載VPN クライアント	3,000	1,000	500	100	10	–
	OpenVPN Connect	3,000	1,000	500	100	10	10
MAC OS X	Tunnelblick	3,000	1,000	500	100	10	10
Android	標準搭載VPN クライアント	–	–	–	–	–	–
	OpenVPN for Android	3,000	1,000	500	100	10	10

（2024年12月現在）

数値は、共有するトンネルインターフェースの合計値です。

※1 tunnel openvpn expiry-kbytes コマンド未設定時は100セッションとなります。

（注）動作検証済みVPNクライアントのバージョンは、各ルーター製品のリリースノートを参照ください。

＊左表は、弊社ホームページに掲載しています。
<https://www.allied-telesis.co.jp/products/info/interope/rt-vpnclient/>

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

4. UTM機能を確認する

■選定ポイント

- **より詳細なセキュリティ機能を使用したい場合は、UTM※1機能の利用検討とその機能を持つルーターを選定する**
  - UTM機能には、アプリケーションコントロール、Webコントロール(URLフィルタリング)、IPレピュテーション(IPアドレスブラックリスト)、アンチウィルス/マルウェアプロテクション、などがあります
    ***UTMは「ルーター応用セミナー」で説明しています**

- **UTM機能の使用でルーターの最大通信速度が遅くなり許容レベル以下になる場合は、UTM機能を別の機器（IDS/IPS※2、UTMオフロード※3、など）で行うことも検討する**
  - UTM機能の使用でもルーターの最大通信速度は低下します

※1 UTM：統合脅威管理(Unified Threat Management) のことで、異なるセキュリティ機能を統合し、ネットワークを様々な脅威から防御する技術
※2 IDS/IPS：Intrusion Detection System(不正侵入検知システム)/Intrusion Prevention System(不正侵入防御システム)のことで、不正アクセスなどの異常を検知した時、管理者への通知と自動で通信を遮断する機器やシステム
※3 UTMオフロード：UTM機能の処理を他のコンピューター（オフロードデバイス）に委託する機能

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

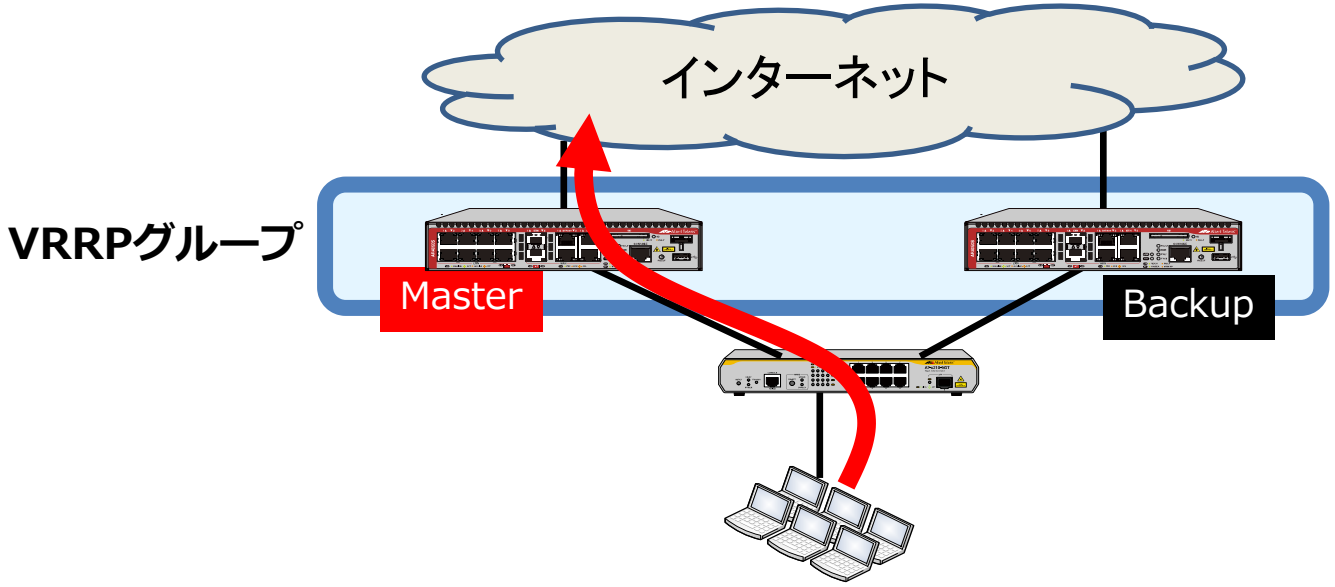
④その他の機能を確認する

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

1. 冗長化機能を確認する

■選定ポイント

- **ルーターの冗長化を行う場合は、VRRP※1などの冗長化機能が実装されていることを確認**
  - VRRPの場合、複数のルーターでVRRPグループを構成する
  - VRRPではグループ内のMasterがパケットを転送し、Masterがダウン時はBackupがMasterになる



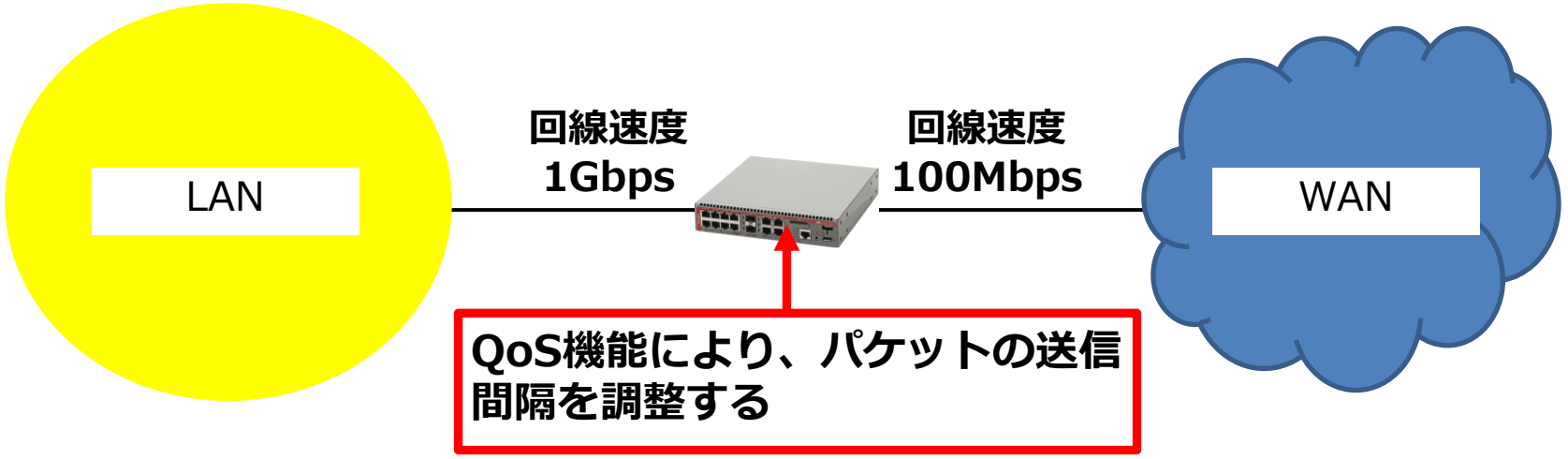
※1 VRRP：Virtual Router Redundancy Protocol の略で、ルーターの冗長化を行うプロトコル。RFC3768で標準化されている

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

2. QoS機能を確認する

■選定ポイント

- **以下のネットワーク要件（環境）においては、QoS※1機能を持つルーターを選定**
  - LANとWANの速度差によるパケットの廃棄頻度を減らしたい場合
  - 特定のパケットを優先的に転送したい場合



※1 QoS：Quality of Service の略で、特定の通信（パケット）に対して優先転送を行ったり、帯域幅（通信速度）を設定し、ネットワークのサービス品質を確保する技術のこと

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

3. SNMP（ネットワーク管理機能）を確認する

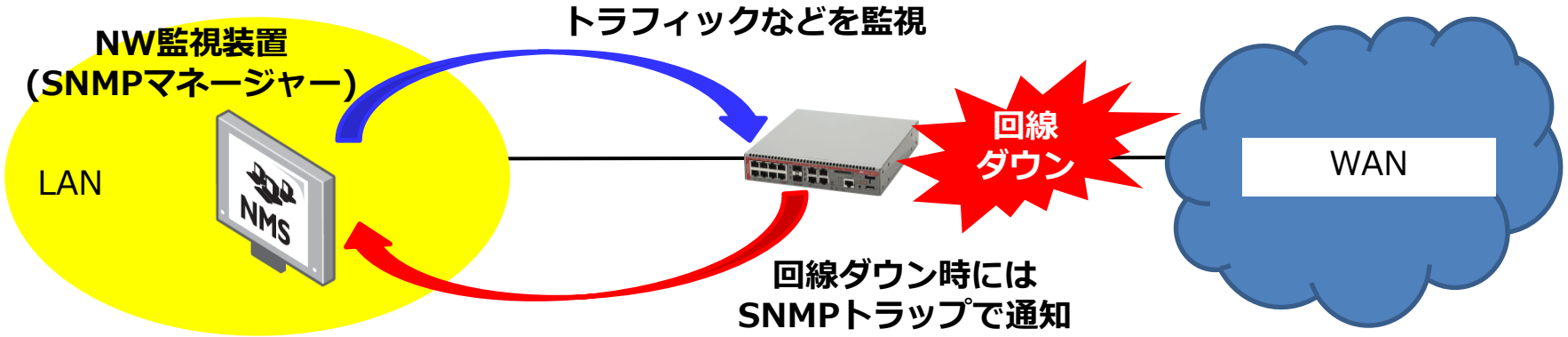
■選定ポイント

- **ルーターをネットワーク監視装置（SNMPマネージャー）で管理する場合、使用したいSNMPのバージョン（以下参照）がルーターに実装されていることを確認**
  - SNMPv1： RFC 1157で標準化。認証は平文で、トラップの再送確認は無い
  - SNMPv2c： RFC 1901で標準化。認証は平文で、トラップの再送確認がある
  - SNMPv3： RFC 2273～2275で標準化。認証に暗号化されたパスワードを使用し、トラップの再送確認がある

NOTE

SNMP（Simple Network Management Protocol）とは

- ルーター本体やルーターのポート状態（ケーブル接続の有無）、トラフィック量、エラーパケット数、などの様々な情報を監視・管理することができる機能
- ネットワークマネージメントソフト等で一括管理が可能



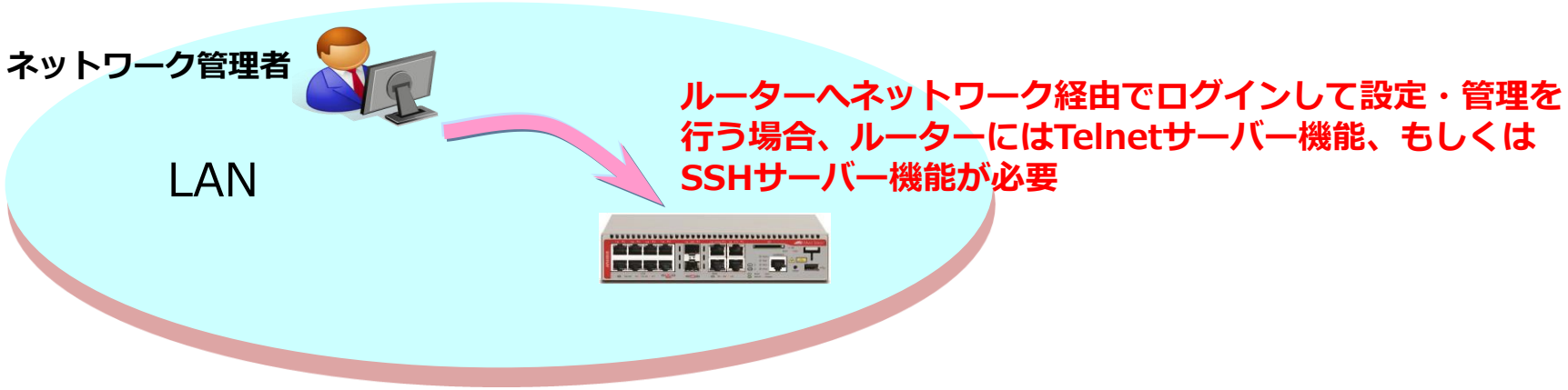
Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

4. 必要に応じて確認する管理機能

■選定ポイント

必要に応じて以下の機能の有無を確認します

- **時刻同期が必要な機能を使用する　⇒　NTP※1（クライアント/サーバー）機能**
- **ルーターへのリモートログインが必要　⇒　Telnet（サーバー）機能 / SSH（サーバー）機能**
- **ログ情報をsyslogサーバーへ転送する　⇒　syslog機能**



※1 NTP：Network Time Protocol（ネットワーク・タイム・プロトコル）の略で、ネットワーク上の機器間で時刻を同期させる通信プロトコル

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

⑤ルーター製品と選定例

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

ルーター製品（一覧）

- 右図は、アライドテレシスのルーター製品の一覧になります
- 導入するネットワークの規模や機能・性能により、複数の機種があります

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

ルーター製品のスペック

- 以下は、アライドテレシスのルーター製品の主なスペックになります

		AT-NFV-APL-GTX	AT-AR4050S / AT-AR4050S-5G	AT-AR3050S	AT-ARX200S -GTX	AT-AR1050V
最大通信速度	Local Routing (bps)	35,000M	1,800M	890M	7,000M	640M
	PPPoE+FW +NAPT(bps)	4,500M	1,400M	600M	5,500M	360M
	アプリケーションコントロール+Webコントロール (bps)	18,000M	1,200M	450M	1,400M	未実装
登録可能経路数	スタティック	1000	1,000	1,000	1,000	1,000
	RIPv1/v2 -IPv4	1500	1,500	1,500	1,500	未実装
	RIPng –IPv6	1000	1,000	1,000	1,000	未実装
ファイアウォール	設定可能ルール数	5,000	500	500	5,000	256
	最大セッション数	1,048,576	300,000	65,535	600,000	16,384
IPsec同時接続可能セッション数		3,000	1,000	100	500	16
モバイルアクセス同時接続可能セッション数		3,000	1,000	1,000	500	10

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

AT-ARX200S-GTX

【10G対応中小規模向けSD-WANルーター】

AT-ARX200S-GTX

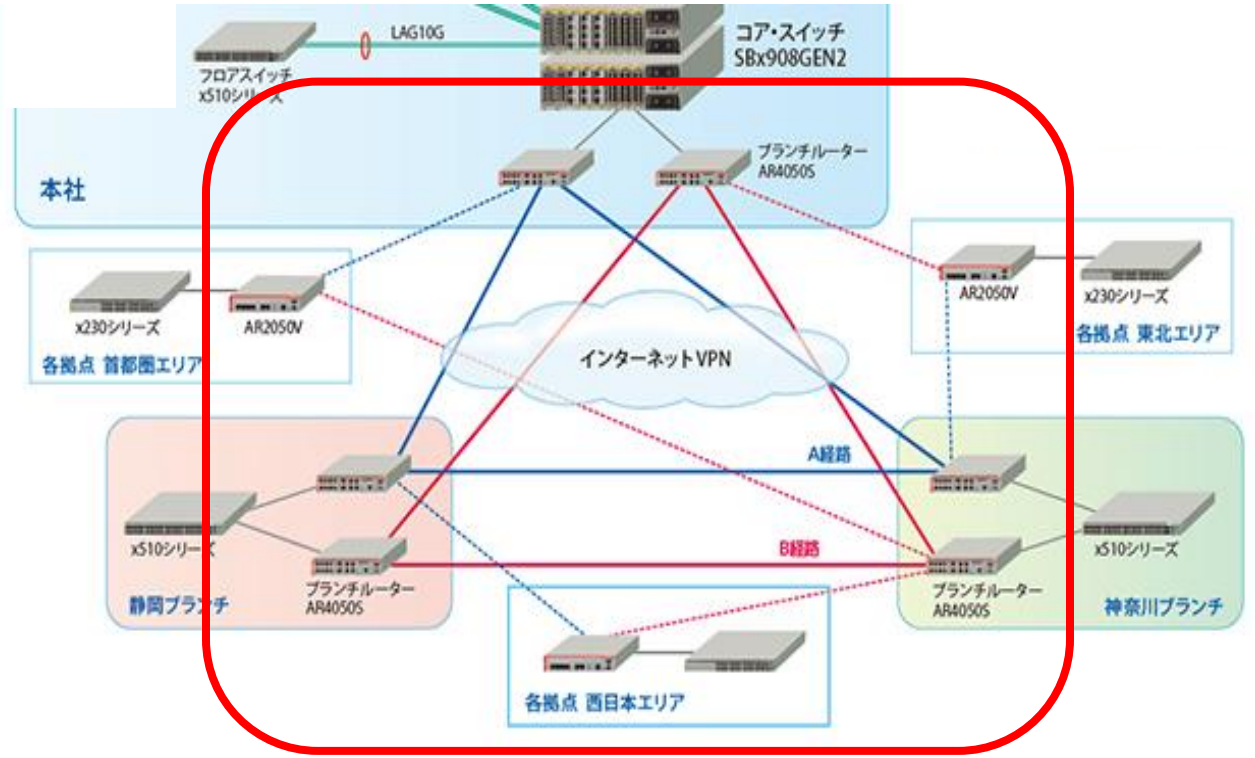
- **ファイアウォール/UTM**
  - ステートフル・パケット・インスペクション型ファイアウォール（ゾーンベース）やIDS/IPSの基本となるセキュリティ機能に加え、レイヤー 3ではIPアドレスブラックリスト、レイヤー 7ではDPI（ディープパケットインスペクション）やURLフィルターなどに対応した、多重構造の強力なセキュリティを備えた次世代ファイアウォールです。
- **VPN（バーチャル・プライベート・ネットワーク）**
  - IPsec VPN接続を利用した仮想網で、拠点間通信が安全に行えます。IKEv2でよりセキュアなIPsec通信が可能なだけでなく、L2TPv3による柔軟な拠点間通信を実現できます。AT-ARX200S-GTXでは、IPsec通信において最大500セッションまでサポートし、多拠点ネットワークを構築することが可能です。
- **AMF-WAN（SD-WAN）**
  - SD-WANロードバランスは、トラフィックを複数のWAN回線に負荷分散し、帯域を有効に利用することができます。回線状態を監視し、新たなセッションを結ぶ際に、品質のよい回線を選択してロードバランスをするといった先進的な負荷分散が可能です。
- **AMF-SEC**
  - 本製品に搭載されているUTM機能で検出した脅威情報を、別途準備されたAMF-SECコントローラーと連携させることで、被疑端末の通信をブラックリストコントロール[遮断・隔離・報告（メール/ログ）]するシステムの構築が可能です。
- **AMF Plusマスター機能およびAWC機能**
  - AMF Plusマスターライセンスの導入でAMF Plusマスター機能が利用でき、AMF Plusメンバーを最大10メンバー管理可能です。また、AWC機能で無線LANアクセスポイントを標準5台、ライセンス追加で15台まで管理可能です。

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

パターン①　インターネットVPNによる拠点間接続

■ 選定要件

条件	• 本社とブランチではルーターを二重化するとともに、二重化したルーター間を接続し、2つのVPN経路を構築 • 各拠点ではルーターの二重化は行わないが、本社もしくはブランチとの間で2つのVPN接続を行う • 本社とブランチは社員数が多く、各拠点からの接続も考慮し、通信速度の高いルーターが望ましい • 社員数の少ない各拠点のルーターには、本社やブランチ程の性能は必要ない	
選定機器	本社およびブランチ	AT-AR4050S
	各拠点	AT-AR2050V



■ 選定ポイント

- 社員数の多い拠点には社員の外出先や自宅からの接続も考慮し、通信速度の高いルーター
- 機器冗長の機能を持つルーター

AT-AR4050S

AT-AR2050V

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

パターン②　IP-VPNによる拠点間接続

■ 選定要件

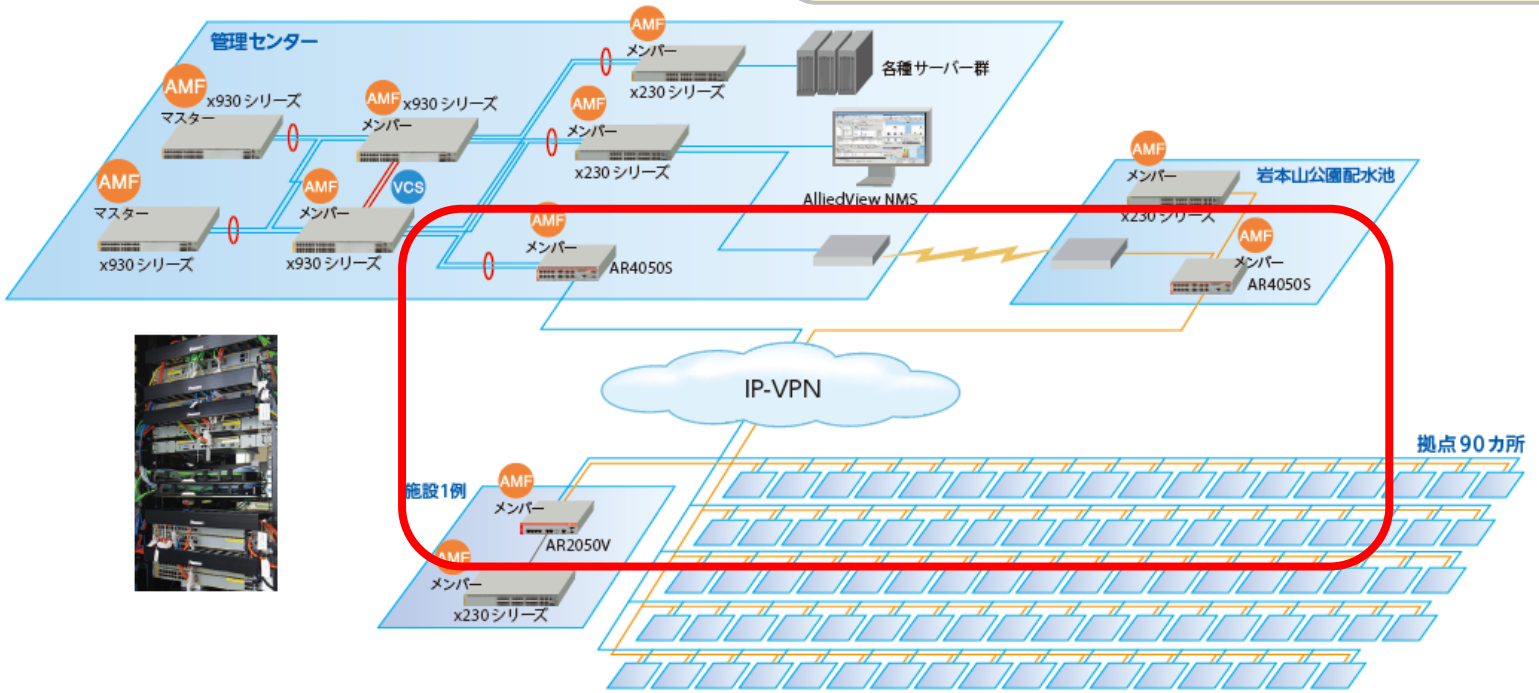
条件	• トラフィックが集中する管理センターと配水池には、通信速度の高いルーターが望ましい • 管理センターのルーターと配下のスイッチ間は回線の二重化を行う • 管理センターおよび配水池と拠点90ヵ所は、IP-VPNで接続する	
選定機器	管理センターおよび配水池	AT-AR4050S
	拠点	AT-AR2050V

■ 選定ポイント

- 管理センターと配水池には通信速度の高いルーター、拠点90ヵ所には発生するトラフィックを転送できる通信速度を持つルーター
- 管理センターには回線冗長が可能なルーター

AT-AR4050S

AT-AR2050V



Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

Appendix：各種販促情報のご案内

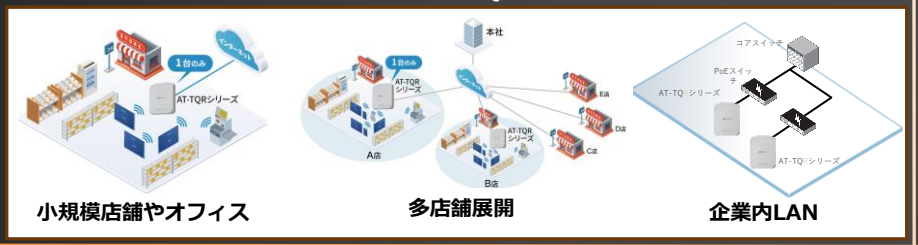
Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

各種販促情報のご案内

新製品のご紹介(Wi-Fi6対応無線LANルーター)

AT-TQ6702 GEN2-R

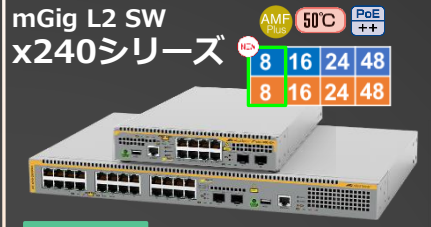
- **Wi-Fi6とVPNルーターの機能を1台で提供**
- **エンタープライズ向け機能を搭載**
  - FirewallやダイナミックENAT、IPsec、VAP、Captive Portal、WPA3など各種エンタープライズ向け機能を搭載
- **AMF Plusによる一元管理に対応**
- **様々なネットワークに適用可能**
  - **無線LANルータとして**、小規模店舗/ブランチオフィスや多店舗展開ネットワーク、**通常の無線LAN APとして**、企業内LANなど様々なネットワークをAT-TQ6702 GEN2-Rで構成可能



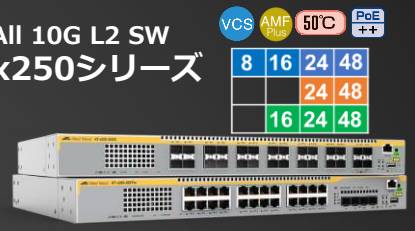
新製品のご紹介（エッジスイッチシリーズ）

Copper Model Lineup
PoE Model Lineup
Fiber Model Lineup

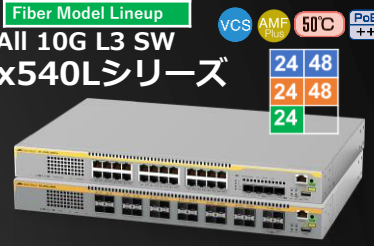
mGig L2 SW
x240シリーズ



All 10G L2 SW
x250シリーズ

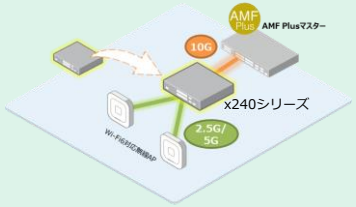


All 10G L3 SW
x540Lシリーズ

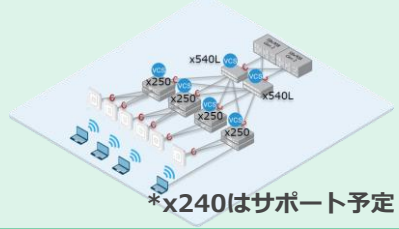


特長

Cat5e対応 mGig サポート
～配線の入れ替えなしで高速通信～

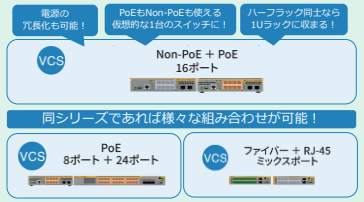


スタックサポート
～ ネットワークのエッジにまで冗長性を～



*x240はサポート予定

環境に応じた拡張性
～組み合わせ自由なスタック構成～

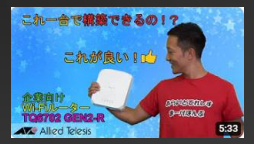


Allied Labのご紹介

Allied Lab で検索！

アライドテレシスの技術を製品担当が分かりやすく紹介。

...第十四回目：次世代高速通信を実現！
「マルチギガビットイーサネットの実力とは！」



...第十三回目：これ一台で構築できる！
「高セキュリティのWi-Fi・VPN環境をまるっと低コストで実現！」

...第十二回目：ネットワーク統合管理
「ネットワーク管理の手間をごそっと削減！」

...他、多数！

ビデオデータシートのご紹介

各種製品名 で検索！

製品の特長やユースケースなどを動画でご紹介します。

...PoE++対応マルチギガビットスイッチ
x530L GHXm シリーズ紹介

...マルチギガビット・インテリジェント・スイッチ
x240シリーズ 紹介

...マルチギガビット対応**PoE++**インジェクター
AT-7101GHTm紹介

...他、多数！

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

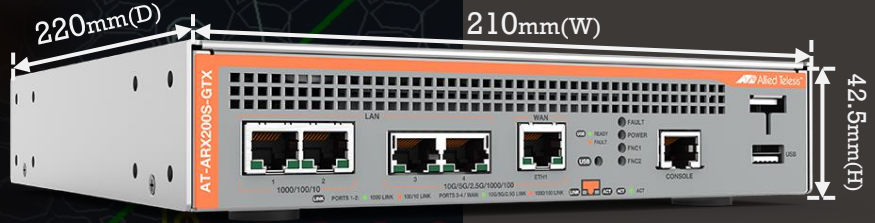
新製品 10G対応SD-WANルーター

通信速度やイメージだけで選んでいませんか？

技のARXシリーズ　DX時代に対応した“第2世代”10Gルーター

10Gbps対応SD-WANルーター

AT-ARX200S-GTX



UTM VPN FW / AW Plus / AMF Plus / AMF WAN / AMF SEC / AWC / 5年保証 / eco friendly / VISTA MANAGER mini

ポート構成

WAN	1×100/1G/2.5G/5G/10G
LAN	2×100/1G/2.5G/5G/10G (LAG可) 2×10/100/1G

10Gbps回線による高速通信

技術の進歩とともに取り扱うデータ量が肥大化し、WANのひっ迫が課題となっている小規模拠点向けの10Gbps対応ルーターです。

60万FWセッションによる大容量通信

クラウドアプリケーションの普及に伴い、これまでの想定を超えるFWセッション数に対応する次世代ルーターです。

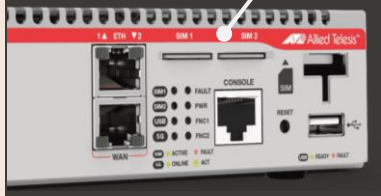
業界最小クラス*のコンパクト設計

奥行き220mmを実現したARX200S-GTXは、AR2050Vと同等のサイズで設計されているため、ARシリーズからのリプレースが可能です。

*企業向けルーターを対象とする

災害時どうする？

5G/4GLTE機能搭載！
回線冗長化ルーター



デュアルSIM対応

対応回線
NTTドコモ
KDDI
ソフトバンク

災害対策にAR4050S-5Gを選ぶ理由

- 光/モバイル回線の併用が可能
- 3回線を用いた二重バックアップ回線
- 24時間稼働を想定された高耐久性
- 緊急モードによる配下無線APの開放

紹介動画公開中！

AR4050S-5G で検索！

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.

ご清聴ありがとうございました。

Allied Telesis

今回ご紹介しましたネットワーク製品に関して、
別途個別に相談がございましたら、お気軽に弊社
営業までお問い合わせください。

Copyright© 2025 Allied Telesis K.K. All Rights Reserved.